

第96回

休日の 午後のコンサート



2023.4.15(土) 14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

Sat. Apr. 15, 2023, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

〈クラシックの車窓から〉〈From the Classical Train's Window〉

指揮とお話 和田一樹 Kazuki Wada, conductor & speaker

サクソフォン 上野耕平* Kohei Ueno, saxophone

コンサートマスター 三浦章宏 Akihiro Miura, concertmaster

J.シュトラウスII: ポルカ『観光列車』(約3分)

J. Strauss II: Vergnügungszug (Pleasure Train), Polka schnell (ca. 3 min)

オネゲル: 『機関車パシフィック231』(約7分)

Honegger: Pacific 231 (Mouvement Symphonique No. 1) (ca. 7 min)

酒井 格: シーサス・クロッシング* (約12分)

Itaru Sakai: Scissors Crossing (ca. 12 min)

— 休憩 intermission —

和田一樹: 京王ライナーオリジナルBGM「K05000」(約5分)

Kazuki Wada: K05000 (ca. 5 min)

ドヴォルザーク: 交響曲第9番『新世界より』(約45分)

Dvořák: Symphony No. 9 "From the New World" (ca. 45 min)

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

協力: 京王電鉄株式会社

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

In Association with Keio Corporation

◎すべてのお客様に、快適にお楽しみいただくために / Dear audience

♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。♪演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned. ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed. ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance. ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

出演者プロフィール

指揮とお話 **和田一樹**

Kazuki Wada, conductor & speaker

東京都中野区出身。2011年ブラジルロンドリーナ音楽祭優秀賞受賞、2015年第6回ブカレスト国際指揮者コンクール準優勝。2017年ヤシ・モルドヴァ・フィルハーモニー管弦楽団を指揮し、ヨーロッパデビュー。オーケストラと聴衆から熱狂的に支持され、楽団の総監督より「最年少最優秀客演指揮者」の称号を受け、毎シーズンの客演を続けている。ドラマ『のだめカンタービレ』、映画『マエストロ!』等で指揮指導を行った。これまでに、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、セントラル愛知交響楽団、富士山静岡交響楽団、ジョルジュ・エネスク・フィルハーモニー管弦楽団など国内外で指揮活動を展開。



©RINZO

サクソフォン **上野耕平**

Kohei Ueno, saxophone

茨城県東海村出身。8歳から吹奏楽部でサクソフォンを始め、東京藝術大学器楽科を卒業。第28回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門第1位・特別大賞(史上最年少)。2014年第6回アドルフ・サククス国際コンクール第2位。現地メディアを通じて日本でも話題になる。デビュー以来、常に新たなプログラムにも挑戦し、サクソフォンの可能性を最大限に伝えている。2017年度第28回出光音楽賞受賞。2018年第9回岩谷時子賞 奨励賞受賞。NHK-FM『×(かける)クラシック』の司会やテレビ『題名のない音楽会』『情熱大陸』など、メディアへの出演も多い。音楽以外にも鉄道と車をこよなく愛し、深く追求し続けている。最新ソロアルバムは『アドルフに告ぐII』。



©S. Ohsugi

<https://uenokohei.com>

プログラム・ノート

解説=酒井 格(作曲家)

「鉄道」を題材にした名曲の数々

書道、茶道、華道、柔道、剣道、弓道、いずれも日本が世界に誇る伝統文化と武道ですが、日本が世界に誇る叡智で忘れてはならない「道」。それが、150年の歴史を積み重ねてきた「鉄道」。今日はそんな鉄道を題材にした作品を集めたコンサートです。ヨーロッパの鉄道は日本よりもさらに50年ほど長い歴史があり、ベートーヴェンは間に合わなかったけれど、19世紀後半から鉄道を題材にした作品も多く生み出されました。今日は、鉄道を描いたさまざまなタイプの作品を、お楽しみください。

旅の始まりは快活なリズムに乗って

J.シュトラウスII：ポルカ『観光列車』

1825年9月、イギリスに世界初の鉄道が開通したのを皮切りに、ヨーロッパ各地で続々と鉄道が建設されるようになりました。そして新しい鉄道の開業をPRするために、多くの音楽が作られました。この曲もその一つで、1864年に発表されました。ポルカとは19世紀前半にチェ



1825年、世界初の鉄道「ストックトン・アンド・ダーリントン鉄道」が開業した(ジョン・ドビンによる絵画)

コで生まれ、ウィーンでも大変人気のあった2拍子の舞曲です。そんなポルカのスタイルで書かれたこの曲は、非常に快活で、車掌が出発合図に使う笛が演奏に用いられるのも聴きどころです。弦楽器が刻むリズムは蒸気機関車のプラスト音(シュッシュッポップ)だとも言われています。ところでシュトラウスII世は、鉄道は大変苦手(というか嫌い)だったそうです。でも、鉄道を題材にした、こんなに楽しい作品を仕上げました。仕事人ですね。

機関車の走行を見事に再現した作品

オネゲル:『機関車パシフィック231』

オネゲルの数ある作品の中でも、ひととき有名なこの作品は、1924年、オネゲルが32歳の時に発表されました。オネゲルは幼い頃から海や帆船、自動車や鉄道にも興味を持ち、この作品について「私はいつも機関車に熱烈な思いを寄せてきました。私にとって機関車は生き物です」「休息中の機械の静かな呼吸、エンジン始動の奮闘、それからスピードが徐々に上がり、情熱に駆られた状態、すなわち、時速120キロで夜通し蒸気を上げる300トンの列車の悲愴感に達するのです」と、語っています。その言葉通り、機関車の走行時の特性が、注意深い観察と、高度な作曲技法によって、見事に再現されています。ちなみに車輪が先輪2軸、動輪3軸、従輪1軸で構成されている機関車を「パシフィック型」と分類し、オネゲルの自筆譜の表紙にも、車軸配置が2-3-1の蒸気機関車が描かれています。ちなみに日本の蒸気機関車では「貴婦人」の愛称を持ち、現在も「SLやまぐち号」を牽引しているC57型が、パシフィック型です。



フランスで走っていた「パシフィック型」の機関車。車軸配置が前から2-3-1となっている ©stock.adobe.com

時代によって変わりゆく鉄道の音の記録

酒井 格：シーサス・クロッシング

本日もサキソフォン独奏をしてくれる上野耕平さんの依頼により書いた曲で、2021年に札幌交響楽団（指揮：秋山和慶）のコンサート「オーケストラで出発進行！」で初演された作品です。作曲の打ち合わせの時、鉄道と言えば「やっぱりガタンゴトンでしょ」と言うことになりました。鉄道のレールは1本が25mなのですが、つなぎ目に隙間ができるので、車輪が通る時に「ガタンゴトン」と言う音がするのです。

また「ガタンゴトン」の他にも、さまざまな鉄道に関わる音を描いています。蒸気機関車のプラスト音、昔の電車から最新式の電車のモーター音や、駅や車内のチャイムに警笛など。「あ、何かこの音聞いた事がある」なんて感じながら聞いてもらえると思います。

ただこの「ガタンゴトン」の音、レール接続の技術進歩によって、都市圏では徐々に聞けなくなりました。また電車の音は、特に変化が早く、ファンの中で「ドレミファインバータ」と親しまれた近未来的な音も、わずか20年ほどで、日本国内で聞けなくなりました。この曲は私にとって、平成から令和にかけての鉄道の音の記録にもなりました。

最後に、タイトルの「シーサス・クロッシング」ですが、複線の線路に、ハサミを広げたように線路が配置されている分岐器で、列車が折り返す駅でよく見かけることができます。新旧さまざまな列車が、これからも変わることなく、大勢の人たちの夢と笑顔を乗せて、行き交い続けるよう願いを込めて名付けました。



京王電鉄京王線笹塚駅のシーサス・クロッシング。複数の線路がハサミを広げたように交差し、分岐してゆく 写真提供：京王電鉄株式会社



雨の夜には列車のライトを浴びて幻想的に光る

家路につく人々への穏やかで優しい旋律

和田一樹：京王ライナーオリジナルBGM「KO5000」

2018年に新型の5000系電車で運行を開始した京王ライナー。その始発駅で、発車前に車内で流れているBGM。本日のマエストロ、和田一樹さんの作品で、2018年の第25回京王音楽祭チャリティーコンサートにて、東京フィルハーモニー交響楽団（指揮：曾我大介）により初演されました。京王ライナーの導入に携わった京王電鉄の社員の方が、市民オーケストラでヴァイオリンを演奏されていたこと。また和田さんが、そのオーケストラの常任指揮者を務められていたご縁で、依頼され作曲することになったそうです。「仕事帰りに着席してゆったり帰宅したい」というニーズに応えられるよう、新宿から八王子、多摩センター方面への運行が始まった列車でしたので、曲は全体を通して穏やかな優しい曲想で、「家路」として知られるドヴォルザークの交響曲『新世界より』第2楽章の旋律が引用されています。また、ヴァイオリンをこよなく愛する依頼者のために、独奏ヴァイオリンが大きな役割を担っています。今日はコンサートホールでのライブ演奏でお楽しみください。

大の鉄道好きだったドヴォルザークの傑作

ドヴォルザーク：交響曲第9番『新世界より』

1892年、ドヴォルザークは、ニューヨークのナショナル音楽院院長として、アメリカに移り住むこととなります。当初、母国を離れることを躊躇したドヴォルザークでしたが、音楽院創設者からの熱心な要請と、破格な報酬を提示されたことで、この要請に応じました。またドヴォルザークはクラシックの作曲家の中でも大の鉄道好き、アメリカ大陸の鉄道や蒸気船に興味があったことも、移住のきっかけとなったようです。

ドヴォルザークは、新任地で作曲やオーケストレーションの指導など、音楽院院長としての仕事を熱心にこなすとともに、アメリカに移住して、初めての大きな作品として手掛けたのが、この交響曲第9番で、1893年の初めから同年の5月にかけて作曲されました。

黒人霊歌などのアメリカの民俗音楽や文学、アメリカの文化に多くの刺激を受け、第2楽章と、第3楽章は、アメリカの詩人、ロングフェローの叙事詩「ハイアワ

サの歌」より「森の葬儀」にインスピレーションを受けたとされています。しかし、アメリカの民俗音楽などが、そのままの形で盛り込まれているというわけではなく、ドヴォルザークが故郷ボヘミアで積み重ねてきた音楽が、異国の文化に刺激を受けたことで、さらに輝きを増していると言えるでしょう。

ところで、第1楽章の冒頭でチェロの旋律に続くホルンは蒸気船の汽笛（ポポー）。第3楽章の、弦楽器が刻むリズムは蒸気機関車のプラスト音。第4楽章冒頭の弦楽器は、列車が徐々に加速していく様子だとよく言われますが、本日のソリスト上野さんによると、第3楽章中間部のチェロバス（チェロとコントラバス）とティンパニの掛け合いは「ガタンゴトン」で、同じく第3楽章コーダの弦楽器の激しいレモロは、蒸気機関車が蒸気を一気に吐き出す音ではないかとのこと。鉄道好きの私も、大いに共感するところです。



ドヴォルザークが毎日のように鉄道を見に行っていたグランド・セントラル駅（1876年頃の絵）

さかい・いたる（作曲家）／大阪音楽大学大学院作曲専攻を修了。吹奏楽作品を中心に新作を多数発表。平成21年以降、選抜高校野球大会入場行進曲の編曲を担当。平成28年度・第25回日本管打・吹奏楽アカデミー賞（作編曲部門）受賞。平成23、26、27、28、30年度、JBA下谷賞受賞。21世紀の吹奏楽「饗宴」会員。大阪音楽大学非常勤講師。

